

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 6 年 7 月 18 日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	(一財) 観光まちづくり佐伯	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 佐伯市	
所在地	大分県佐伯市	
設立時期	令和 6 年 2 月 7 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	26 人 (常勤 19 人 (正職員 14 人・出向等 5 人)、非常勤 7 人)	
代表者 (トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 理事長 池邊 恭行 (出身組織名) 株式会社マルミヤストア	株式会社マルミヤストアの代表取締役社長として、地域の様々なパイプ役となっており、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者 (CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 半田 慎二「専従」 (出身組織名) 株式会社 JTB	株式会社 JTB で 32 年間勤務。団体旅行セールスや添乗業務、旅行商品企画、販売促進といったセクションを歴任し、幅広い知識や経験がある。 特に旅行商品企画の分野においては、旅行業務取扱管理者の資格を有しており、着地コンテンツの掘り起こしや磨き上げに精通している。 また販売促進の分野における知見で、データを収集し活用したマーケティング業務を担ってもらう。
財務責任者 (CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 山本 弘幸「専従」 (出身組織名) 佐伯市役所	佐伯市で 30 年間勤務。財政、商工振興、観光振興、行政経営、まちづくり部門を経て着任。各種行政制度等に精通しており、持続可能な運営のための運営収支や財源確保に関する検討を行う。
プロモーションの責任者 (専門人材)	(氏名) 川崎 雅也 (出身組織名)	株式会社 JTB で 13 年間勤務。在職中は旅行商品の仕入造成、着地型旅行商品の企画から販売、プロモーションを担当。

	株式会社 JTB	現在はプロモーション活動を中心に国内外の個人、団体の誘客事業の推進責任者として業務に従事。						
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	【佐伯市】 ○観光・国際交流課 さいきツーリズム戦略（2024-2028）、事業提案の実施計画への反映 ○都市計画課・地域振興課 佐伯市市街地グランドデザイン及び実施計画への事業提案の反映							
連携する事業者名及び役割	佐伯商工会議所（商品造成）、佐伯市番匠商工会（商品造成）、佐伯市あまべ商工会（商品造成）、佐伯セントラルホテル（宿泊）、ホテル金水苑（宿泊）道の駅指定管理者（商品造成）、JR 九州（二次交通）、NEXCO 西日本九州支社（二次交通）、(株)JTB（商品造成）、東武トップツアーズ株式会社（商品造成）、立命館アジア太平洋大学（商品造成）							
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①及び② （概要）宿泊施設、飲食店、農漁業者、交通事業者、商工会等、多種多様な事業者、団体が会員として参画しており、理事会が意思決定機関となっている。理事会は多様な事業者が理事となって、意見等を聴取している。また、事業推進委員会を設置、メンバーには会員や、外部からの有識者、行政担当者などを加え、幅広い知見と情報を共有することで、戦略的かつ持続可能な推進体制を構築している。							
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	定期的に住民参加型の食のワークショップを年24回程度開催し、直近では令和6年6月に開催したほか、市民団体交流や地域産業教育の促進等を通じて地域への理解を進める。							
法人のこれまでの活動実績	【事業主体について】 当法人は令和6年2月19日に一般社団法人佐伯市観光協会と株式会社まちづくり佐伯が発展的統合により設立。旧法人の業務を引き継ぐ形で設立されたことから、以下の実績については旧法人での実績を記載する。 【活動の概要】 <table><tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr><tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>令和5年度 観光情報発信事業 観光ナビ（佐伯市観光ホームページ）の運営管理やSNSによる情報発信、各種観光パンフレットの管理、ポスターやグッズ等のデザインを行い、広く観光宣伝を実施。 令和5年度 国内誘客事業 ・別府市連携事業 温泉観光地の別府市と連携し、別府を訪れた観光客を佐伯市へ誘客するためのプロモーションを実施 ・JR デスティネーションキャンペーンに向けた誘客事業 佐伯港街バルの開催や佐伯駅から港までの賑わいの創出によるプロモーションを実施 ・市内外から集客する魅力あるイベント、交流会の企画実施 ・web を活用した佐伯商品のセールス、飲食店や観光情報発信</td></tr><tr><td>受入環境の整備</td><td>令和5年度 外貨を落とすまちづくり事業 ・一次産品を中心としたさいき特産商品のセールス 就業促進基盤の整理 ・まちなかサポートセンター運営 ・民間活力応援業務</td></tr></table>		事業	実施概要	情報発信・プロモーション	令和5年度 観光情報発信事業 観光ナビ（佐伯市観光ホームページ）の運営管理やSNSによる情報発信、各種観光パンフレットの管理、ポスターやグッズ等のデザインを行い、広く観光宣伝を実施。 令和5年度 国内誘客事業 ・別府市連携事業 温泉観光地の別府市と連携し、別府を訪れた観光客を佐伯市へ誘客するためのプロモーションを実施 ・JR デスティネーションキャンペーンに向けた誘客事業 佐伯港街バルの開催や佐伯駅から港までの賑わいの創出によるプロモーションを実施 ・市内外から集客する魅力あるイベント、交流会の企画実施 ・web を活用した佐伯商品のセールス、飲食店や観光情報発信	受入環境の整備	令和5年度 外貨を落とすまちづくり事業 ・一次産品を中心としたさいき特産商品のセールス 就業促進基盤の整理 ・まちなかサポートセンター運営 ・民間活力応援業務
事業	実施概要							
情報発信・プロモーション	令和5年度 観光情報発信事業 観光ナビ（佐伯市観光ホームページ）の運営管理やSNSによる情報発信、各種観光パンフレットの管理、ポスターやグッズ等のデザインを行い、広く観光宣伝を実施。 令和5年度 国内誘客事業 ・別府市連携事業 温泉観光地の別府市と連携し、別府を訪れた観光客を佐伯市へ誘客するためのプロモーションを実施 ・JR デスティネーションキャンペーンに向けた誘客事業 佐伯港街バルの開催や佐伯駅から港までの賑わいの創出によるプロモーションを実施 ・市内外から集客する魅力あるイベント、交流会の企画実施 ・web を活用した佐伯商品のセールス、飲食店や観光情報発信							
受入環境の整備	令和5年度 外貨を落とすまちづくり事業 ・一次産品を中心としたさいき特産商品のセールス 就業促進基盤の整理 ・まちなかサポートセンター運営 ・民間活力応援業務							

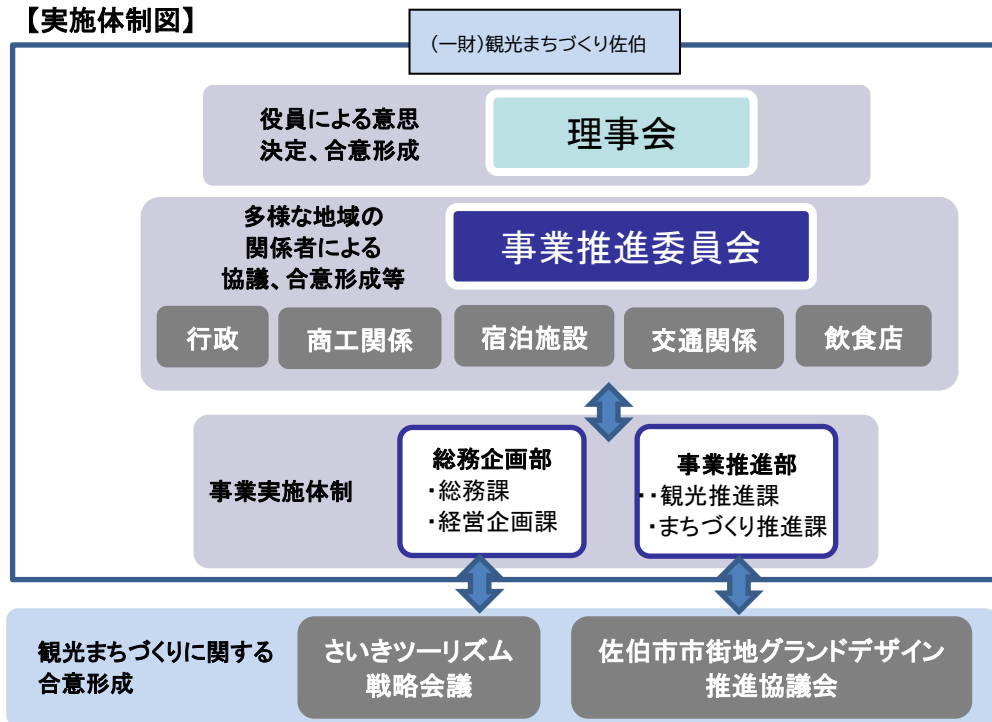
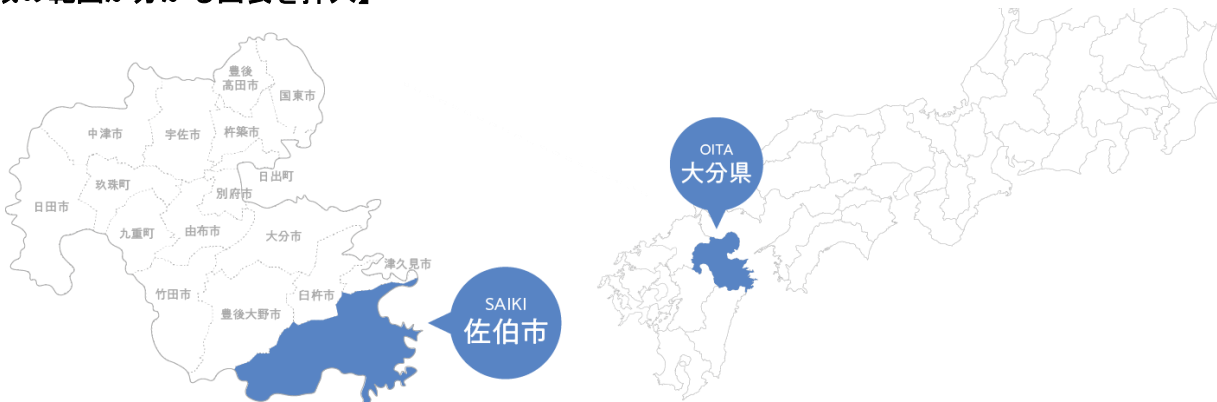
		クラウドファンディング事業の PR、サポート ・新商品開発 民間事業者と連携した佐伯商品の開発、宣伝活動 令和 4 年度 観光産業創生事業 新しい観光コンテンツとして袴着付け体験を着地型旅行商品として整備した
	観光資源の磨き上げ	令和 5 年度 公共交通機関連携事業 NEXCO 西日本と連携しサービスエリア等を活用したプロモーションを実施 ・食キャンペーンの開催 食観光 PR のため四季を通じた食キャンペーンを実施 ・さいきレトリップ事業 袴着付け体験を着地型商品として販売
【定量的な評価】 【情報発信】 令和 5 年度 ・佐伯市観光ナビ HP アクセス数 370,380 件 SNS リーチ数 970,319 件 ・令和 5 年度 SNS フォロワー数 9,344 人 【商品開発】 ・EC サイト、ふるさと納税返礼品売上 3,700 千円（令和 5 年度） ・新規着地型旅行商品開発数 7 件（令和 5 年度） ・佐伯産品開発数 7 件（令和 5 年度） ・食キャンペーン実食数 42,487 食（令和 5 年度） 【入込客数】 令和 5 年度 観光入込客数 126 万人 令和 3 年から新型コロナウイルスの影響により入込客数が落ち込んだものの、その間でマイクロツーリズムを意識した取り組みとして公共交通関係者との連携や県内観光地との連携に注力した。令和 4 年には年間 120 万人の入込客数を超え、コロナ前の水準まで回復している。		

実施体制

※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

（一財）観光まちづくり佐伯の規程により事業推進委員会を設置。同委員会を地域関係者による合意形成の場とし、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、文化財、国立公園、農泊、アクティビティ、農林水産業、商工業等、多様な関係者が参画する官民が密接に連携した運営を実施。

【実施体制図】**2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域****【区域の範囲が分かる図表を挿入】****【区域設定の考え方】**

平成 17 年に 1 市 5 町 3 村が合併し、新たな「佐伯市」が誕生。中心市街地活性化のため平成 21 年 9 月 17 日に株式会社まちづくり佐伯を設立し、平成 24 年には各地域の観光協会を統合し、一般社団法人佐伯市観光協会を設立。両組織はそれぞれ市域にて、その地域性を活かしながらまちづくり振興、観光振興を行ってきた。そして、当該区域における観光まちづくりを一手に担い、そして観光地経営の司令塔となるべく、令和 6 年 2 月 19 日に両組織を統合し、一般財団法人観光まちづくり佐伯が設立された。よって当該区域での設定が適切である。

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

令和 5 年の観光入込客数は約 126 万人。宿泊客数は約 16 万人、国内宿泊客数は約 15.7 万人。外国人宿泊者数は約 0.3 万人。（出典：佐伯市観光統計調査より）

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

【自然資源】持続可能な観光地づくりに向けて学べるコンテンツ造成など

日豊海岸国定公園：鶴御崎灯台、豊後二見ヶ浦、大入島オルレ、蒲戸崎展望台、暁嵐の滝、海の資料館、水の子島海事資料館、丹賀砲台園地、仙崎つつじ公園、空の展望所（シバザクラ）

祖母傾国定公園：藤河内溪谷、観音滝、夏木山（アケボノツツジ）唄げんか大橋

番匠川：番匠おさかな館、小半森林公園

【観光施設】

（道の駅）道の駅やよい、道の駅宇目、道の駅かまえ

（キャンプ場）そらのほとり（うめキャンプ村）、直川憩いの森公園キャンプ場、瀬会公園キャンプ場、小半森林公園キャンプ場、藤河内溪谷キャンプ場、中岳キャンプ場、高平キャンプ場 outdoor lab

【スポーツ施設】佐伯市総合運動公園（佐伯中央病院陸上競技場、佐伯中央病院スタジアム、佐伯中央病院市民プール、テニスコート、多目的広場、弓道場、アーチェリー場、相撲場、遊具広場、佐伯中央病院アリーナ）

【イベント】さいき桜まつり、つるみ豊魚祭、米水津おさかなまつり、佐伯みなとお魚フェスタ、ツール・ド・佐伯、トンド火まつり

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

佐伯エリア：5 施設	収容人数	642 人	
鶴見エリア：1 施設	収容人数	32 人	
蒲江エリア：1 施設	収容人数	53 人	
上浦エリア：1 施設	収容人数	60 人	
本匠エリア：1 施設	収容人数	95 人	
直川エリア：1 施設	収容人数	129 人	
宇目エリア：2 施設	収容人数	122 人	合計 1,133 人

【利便性：区域までの交通、域内交通】

JR：博多駅から 3 時間 30 分、小倉駅から 2 時間 40 分、宮崎駅から 2 時間、大分駅から 1 時間

自動車：福岡市から 2 時間 40 分、北九州市から 2 時間 20 分、熊本市から 3 時間 10 分、宮崎市から 2 時間 20 分

飛行機：羽田空港から大分空港まで 1 時間 30 分、大分空港からバスで 2 時間 10 分

伊丹空港から大分空港まで 1 時間

【外国人観光客への対応】

JNTO 認定外国人観光案内所カテゴリー1（佐伯市観光案内所）を運営

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	行政と連携した調査を実施。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	佐伯市観光 HP「佐伯市観光ナビ」を活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	アンケート調査を自主事業として実施。

4. 戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

当市は、観光客入込客数が年間約 126 万人の観光客が来訪する地方都市であるものの、最も観光消費に貢献する宿泊客の獲得が難しく観光消費の機会づくりに課題を抱えている。その要因はおんせん県の大分県にあって有名温泉や温泉宿がなく、大分県内の年間宿泊者数が約 500 万人に対して当市の宿泊客数は約 16 万人で、九州、大分県に温泉のイメージが根強いことから宿泊は温泉地となる傾向があることが挙げられる。

令和 5 年度大分県観光実態調査報告書によると、旅行先に大分県を選んだ理由のトップが「温泉に魅力を感じる」（34.6%）という回答と県内での宿泊日数は、1 泊（66.3%）が最も多くなっている。当市は温泉という大分県最大の観光コンテンツがないエリアであることに加えて、大分県南部の宮崎県との県境に位置することから大分県内の有名観光地から訪れていただくには、温泉と相乗効果が見込める観光コンテンツや温泉と同等の魅力が求められる。

また、近年、行政、観光協会、民間で観光の推進を行ってきたが、当市においては県内の観光地と比べ、観光事業者は多くなく観光でのまちづくりという面では遅れている状況。一方で人口減少に伴い各種産業の従事者も減少していることから、新たな観光まちづくり法人としてDMO化を図り観光まちづくりで稼ぎ、産業を維持することで地域へ貢献する。（以下国勢調査資料より）

第 1 次産業就業者 平成 22 年 3,106 人 ⇒ 平成 27 年 2,864 人 ⇒ 令和 2 年 2,412 人

第 2 次産業就業者 平成 22 年 9,231 人 ⇒ 平成 27 年 8,317 人 ⇒ 令和 2 年 7,888 人

第 3 次産業就業者 平成 22 年 21,005 人 ⇒ 平成 27 年 20,822 人 ⇒ 令和 2 年 19,464 人

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・海・山・川すべてがそろっている自然環境 ・新鮮な海産物、農作物	弱み (Weaknesses) ・温泉資源がない ・認知度が低い ・二次交通
外部環境	機会 (Opportunity) ・延岡－佐伯間高速道路無料 ・別府、由布院まで車で 1 時間	脅威 (Threat) ・人口減少による産業の衰退 ・

※上記に加え、P E S T 分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層 福岡県、大分県、宮崎県の２０代～４０代
○選定の理由 さいきツーリズム戦略 2019－2023 では 20 代～40 代の女性をターゲットに事業を展開。特に公共交通機関連携事業ではトレンドと自地域の強みを掛け合わせた事業を展開。令和５年度同事業でのアンケートでは、大分県（51.7%）、福岡県（27.1%）、宮崎県（2.5%）の利用者となっており、女性の割合が 58.1%で、20 代～40 代が 53.1%である。第一ターゲット層へのアプローチにより、SNS 等の媒体を使った情報発信で同世代以外の層への訴求も可能となり、137,866 リーチ増を記録した。引き続き同世代をターゲットとすることで、次に掲げる 50～70 代のターゲット層も同世代と家族世代であるため相乗効果が見込める。 ○取組方針 これまでの事業実績に基づき、事業構築を行うとともにアンケート結果などに基づき P D C A サイクルを回す。
○第２ターゲット層 福岡県、大分県、宮崎県の５０代～７０代
○選定の理由 第２ターゲット層については、これまでの事業アンケート等において佐伯市のコアユーザーである。食キャンペーンの１つである「東九州伊勢海老海道事業」のアンケート結果によると 50 代 18.2%、60 代 25%、70 代 24.4%と 50 代～70 代が 67.6%を占め、特徴として同事業のユーザーの１食あたりの最低消費価格 6,600 円となっており、消費単価が高い。またリピーター率も 50.2%となっており観光消費が期待できる食キャンペーンでのリピーター獲得が地域観光の活性化につながっている。 ○取組方針 食キャンペーンを中心に単価の高い観光消費行動を引き起こす仕組み・事業づくりを図る。
○第３ターゲット層 県内温泉観光地（別府市・由布市）を訪問した観光客
○選定の理由 有名観光地である別府市・由布市と連携し、両市を訪問した観光客が佐伯市へ訪れるきっかけづくりを行うことで温泉＋αの旅を提供する。別府市とは令和２年度から連携事業を実施し、由布市とは令和６年度から連携事業を開始した。 ○取組方針 温泉＋佐伯市での食・体験を発信し、観光客の満足度向上と佐伯市の認知度向上を図る。
○第４ターゲット層 韓国、台湾からのインバウンド客
○選定の理由 当市のインバウンド客数は宿泊客ベースで 0.3 万人となっている。外国人観光客からは未開拓地として自然や田舎の魅力あふれる地域となっている。これまで農家民泊を中心に海外からの教育旅行の受け入れがメインとなっている。日帰りでは特に韓国発祥のオルレコースがある大入島では年二回開催されるフェアを中心に福岡県からのツアー造成が行われ、韓国からの団体ツアーも実施されるなど国内外からの誘客に期待ができる。同コースは令和５年 12 月に踏破者 10,000 人を達成した。台湾からの誘客については令和４年にサイクル交流に関する MOU を締結した台湾・台中市との連携によるサイクリストなどを中心とした誘客に取組む。令和４年からスタートした袴着付けレンタル事業と併せた旅行商品として令和５年度には台湾からの団体ツアーを年間 5 本誘致したことから、今後も同商品を中心にインバウンドの団体ツアー、個人客誘致に取り組む。 ○取組方針

関係する国や地域と連携した団体（教育旅行、SIT 層）の誘客と袴着付けなどの素材を生かした団体・個人の誘客

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	浦 100～100 年後も人の営みが豊かな浦を残す～  
②コンセプトの考え方	「佐伯の殿様 浦でもつ。（浦の恵みは山でもつ）」そう言い伝えられるほど、佐伯市は豊かな山、川、海をもちます。1623 年には佐伯藩は魚類の生息を守るため森林資源を残す触書を出しました。これはSDGs の先駆けともいえる取り組みであり、400 年が経過しました。次の 100 年に向け、佐伯市では「100 年後も人の営みが豊かな浦を残すにはどうすればいいだろうか」という問いを立て、山、川、海の自然の循環を観光コンテンツと捉え、自然の恵みを体感できる観光プログラムを参画者のみなさまと共に考え、共に作り上げていき、併せて山・川・海の保全活動の推進を図っていくことで持続可能な観光地づくりを目指します。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	理事会（年 2 回） 関連団体・事業者の代表による理事会を構成。 法人の予算・事業計画などの承認を行う。 事業推進委員会（年 2 回） 実施事業に対して、地域の関係者の意見及び提案等を調査並びに研究する。委員会は市内宿泊事業者や体験事業者、広報誌編集者、道の駅駅長、公共交通機関事業者、行政、地域コンサル、大学助教などにより編成されており、特に地域の若手でこれからの佐伯観光を担う人材を中心に構成されている。令和 6 年 7 月 4 日に第 1 回の事業推進委員会を開催し、以降 2 か月に 1 回のペースで開催を予定している。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	事業による観光客向けのアンケート調査において事業の評価及び参加店舗の評価について項目を設けて回答を集約している。特にツアー客向けのアンケート調査も実施しており、「改善が必要」という回答が過半数を超えた場合、店舗へその旨を伝え団体ツアー等の対応改善を依頼している。高評価の店舗については自然と団体ツアーのリピーター化につながっている。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	広報戦略を策定しそれに基づく情報発信を行う。当法人が主体的に発信をしながら、会員を中心に市内事業者の情報を集約し事業と合わせて一元的なプロモーションを図る。 また、市 HP トップページに観光 HP へのバナーを掲載し、市及び地域と

	一体となった情報発信を実施。
--	----------------

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須K P I

指標項目		2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度	2026 (R 8) 年度
●旅行消費額 (千円)	目標	()	()	()	898,870 ()	943,813 ()	991,003 ()
	実績	746,322 ()	826,653 ()	856,067 ()			
●延べ宿泊者数 (人)	目標	()	()	()	164,000 ()	168,000 ()	172,000 ()
	実績	115,653 (1,442)	144,497 (690)	160,117 (2,506)			
●来訪者満足度 (%)	目標	()	()	()	77.7 ()	79.2 ()	80.7 ()
	実績	()	()	76.2 ()			
●リピーター率 (%)	目標	()	()	()	80 ()	80 ()	80 ()
	実績	()	()	78.2 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

当法人は、佐伯市の観光並びにまちづくりと密接に関係する法人であり、事業推進及び観光マーケティングにあたって、密に連携協調を図る。そのため旅行消費額、延べ宿泊者数の実績値は、佐伯市観光統計の値であり、KPIについては佐伯市第二次総合計画及びさいきツーリズム戦略 2024-2028 の数値を設定する。また、来訪者満足度、リピーター率については、関係する過去のデータ等がないため、今後市及び当法人が実施するアンケート調査の値を基礎とすることとしている。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

さいきツーリズム戦略 2024-2028 で目標とされている KPI から設定（基準年度：令和 5 年度）

●延べ宿泊者数

佐伯市第二次総合計画及びさいきツーリズム戦略 2024-2028 で目標とされている KPI から設定（基準年度：令和 5 年度）

●来訪者満足度

さいきツーリズム戦略 2024-2028 で目標とされている KPI から設定。（基準年度：令和 5 年度）

●リピーター率

さいきツーリズム戦略 2024-2028 で目標とされている KPI から設定。（基準年度：令和 5 年度）

(2) その他の目標

指標項目		2021 (R 3) 2021 年度	2022 (R 4) 2022 年度	2023 (R 5) 2023 年度	2024 (R 6) 2024 年度	2025 (R 7) 2025 年度	2026 (R 8) 2026 年度
●観光HPアクセス数（件）	目標	()	()	()	600,000 ()	700,000 ()	800,000 ()
	実績	()	()	359,466 ()			
●EC サイト等売上（千円）	目標	()	()	()	4,625 ()	5,781 ()	7,226 ()
	実績	()	()	3,700 ()			
	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			
	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			
	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

当法人は、佐伯市の観光並びにまちづくりと密接に関係する法人であり、事業推進及び観光マーケティングにあたっては、密に連携協調を図る。KPIについてはさいきツーリズム戦略 2024-2028 の数値を設定する。

【設定にあたっての考え方】

●観光HPアクセス数

さいきツーリズム戦略 2024-2028 で目標とされている KPI から設定し、佐伯市観光ナビ及び観光まちづくり佐伯 HP の合計から算出。（基準年度：令和 5 年度）

●EC サイト等売上

佐伯産品の販売にかかる売上を設定（基準年度：令和 5 年度）

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後 3 年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去 3 年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2021（R3） 年度	（円）	（内訳の区分例） 【国からの補助金】 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 【公物管理受託】 【収益事業】 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】 等
2022（R4） 年度	（円）	（円）
2023（R5） 年度	（円）	（円）
2024（R6） 年度	152,461,000（円）	【国からの補助金】 2,550,000 円 （国土計画協会） 【都道府県からの補助金】 11,340,000 円 【市町村からの補助金】 123,659,000 円 【公物管理受託】 0 円 【収益事業】 14,810,000 円 【雑収益】 102,000 円
2025（R7） 年度	152,461,000（円）	【国からの補助金】 2,550,000 円 （国土計画協会） 【都道府県からの補助金】 11,340,000 円 【市町村からの補助金】 123,659,000 円 【公物管理受託】 0 円 【収益事業】 14,810,000 円 【雑収益】 102,000 円
2026（R8）	152,461,000（円）	【国からの補助金】 2,550,000 円

年度		(国土計画協会) 【都道府県からの補助金】 11,340,000 円 【市町村からの補助金】 123,659,000 円 【公物管理受託】 0 円 【収益事業】 14,810,000 円 【雑収益】 102,000 円
----	--	--

(2) 支出

年(年度)	総支出	内訳(具体的に記入すること)
2021(R3)年度		
2022(R4)年度	(円)	(円)
2023(R5)年度	(円)	(円)
2024(R6)年度	152,461,000 (円)	【一般管理費】 53,900,000 円 【情報発信・プロモーション】 15,670,000 円 【受入環境整備等の着地整備】 19,921,000 円 【コンテンツ開発】 25,000,000 円 【マーケティング】 7,500,000 円 【観光イベントの開催費】 5,000,000 円 【その他管理費】 25,470,000 円
2025(R7)年度	152,461,000 (円)	【一般管理費】 53,900,000 円 【情報発信・プロモーション】 15,670,000 円 【受入環境整備等の着地整備】 19,921,000 円 【コンテンツ開発】 25,000,000 円 【マーケティング】 7,500,000 円 【観光イベントの開催費】 5,000,000 円 【その他管理費】 25,470,000 円 (円)
2026(R8)年度	152,461,000 (円)	【一般管理費】 53,900,000 円 【情報発信・プロモーション】 15,670,000 円 【受入環境整備等の着地整備】 19,921,000 円 【コンテンツ開発】 25,000,000 円 【マーケティング】 7,500,000 円 【観光イベントの開催費】 5,000,000 円 【その他管理費】 25,470,000 円 (円) (円)

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

(公共施設管理事業収入)

国及び佐伯市等の施設管理運営に係る受託により安定的な財源確保を図る。

特に既存の施設の指定管理受託や市営駐車場等の管理をはじめ、既存の観光施設の活用に向けた提案を市に対して行っていく。

(自主事業収入)

佐伯産品の活用として「ふるさと定期便サービス」やふるさと納税返礼品商材の企画開発を検討し、お土産物開発販売事業や観光列車等におけるおもてなし事業との相乗効果を図る。行政が積極的に進めているサイクルツーリズムの推進と連携した当法人での E-bike をはじめとしたレンタサイクルやそれらを活用したライドイベント、インバウンド向け商材として既存の「さいきレトリップ事業(袴着付け体験)」を整えるべく事業における PR 方法や価格設定について見直しを行い効果的なプロモーションにより団体等の誘客につなげる。

その他の着地型旅行商品についても販売チャネルを拡大し、個人向け、団体向けに販促を図る。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

佐伯市は、一般財団法人観光まちづくり佐伯を当該都道府県及び市町村における地域DMOとして登録したいので一般財団法人観光まちづくり佐伯とともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

（例）エリアが重複する●●DMOとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	半田 慎二
担当部署名（役職）	CMO（事業推進部長）
郵便番号	876-0854
所在地	大分県佐伯市中村南町 3-2
電話番号（直通）	0972-22-9900
FAX番号	0972-22-9119
E-mail	gxsta13@gmail.com

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	大分県佐伯市
担当者氏名	中元 真悟、戸高 博彦
担当部署名（役職）	観光ブランド推進部観光・国際交流課観光係（総括主幹） 地域振興部地域振興課ふるさと振興係（総括主幹）
郵便番号	876-8585
所在地	大分県佐伯市中村南町 1-1
電話番号（直通）	0972-22-3942
F A X 番号	0972-22-0025
E - m a i l	kankouka@city.saiki.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 大分県佐伯市
【設立時期】 令和6年2月7日
【設立経緯】
民間主導の観光まちづくりを目指し、一般社団法人佐伯市観光協会と株式会社まちづくり佐伯の発展的統合により設立。
【代表者】 理事長 池邊 恭行
【マーケティング責任者(CMO)】 半田 慎二
【財務責任者(CFO)】 山本 弘幸
【職員数】 26人(常勤19人(正職員14人・出向等5人)、非常勤7人)
【主な収入】 令和6年度 152,461千円
自主事業収入 14,810千円 公共施設管理受託 10,100千円
佐伯市事業受託 113,559千円 その他 13,992千円
【総支出】 令和6年度 152,461千円
事業費 126,991千円 管理費 25,470千円
【連携する主な事業者】
佐伯市、佐伯商工会議所、佐伯市番匠商工会、佐伯市あまべ商工会、佐伯セントラルホテル、道の駅指定管理者(やよい、かまえ、宇目)、JR九州、NEXCO西日本九州支社、(株)JTB、東武トップツアーズ株式会社、立命館アジア太平洋大学

戦略

【主なターゲット】
・福岡県、宮崎県、大分県
・別府市、由布市を訪問した観光客
・韓国、台湾からのインバウンド
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・旅行会社と連携した商品造成
・温泉＋αのコンテンツPR
・インバウンド受け入れ整備
【観光地域づくりのコンセプト】
・地域と一体となって新たな観光コンセプト
「浦100」を中心とした持続可能な観光まちづくりを目指します。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・さいきレトリップ事業(袴着付)
・お土産物開発、販売事業
・食のまちづくり推進事業
・国内誘客推進事業
・浦100ツーリズムによる地域再生
【受入環境整備】
・駅前駐車場公金収入、観光案内所
・観光交流館観光案内業務
・大手前情報発信館案内業務
・レンタサイクル事業

【情報発信・プロモーション】
・さいき本舗城下堂事業(ECサイト)
・観光情報発信事業
・JRDCに向けた誘客事業
・自転車活用推進事業
・クルーズ船受入事業

【その他】
・市街地人と仕事創造事業
・チャレンジショップ事業
・地域産業教育促進事業

新たな観光コンセプト「浦100」



KPI(実績・目標)

記入日: 令和6年7月18日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年
旅行消費額 (千円)	目標	()	()	()	898,870 ()	943,813 ()	991,003 ()
	実績	746,322 ()	826,653 ()	856,067 ()	—	—	—
延べ 宿泊者数 (人)	目標	()	()	()	164,000 ()	168,000 ()	172,000 ()
	実績	115,653 (1,442)	144,497 (690)	160,117 (2,506)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	()	()	()	77.7 ()	79.2 ()	80.7 ()
	実績	()	()	76.2 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	()	()	()	80 ()	80 ()	80 ()
	実績	()	()	78.2 ()	—	—	—